

主催：あけぼの公園土俵祭り2018実行委員会



土俵開き 日本相撲聞芸術作曲家協議会 JACSHA (写真左から野村 誠氏、樅山智子氏、鶴見 幸代氏)



曙公園相撲場を20数年ぶりに活用した行事を開催

明治6年に私学須崎学校として開学し、その後に湊小学校があった場所が、現在、曙公園になっている。名残として曙公園には土俵が残っている。その土俵を活用して、アーティスト鶴見幸代氏を招いての音楽創作ワークショップを行った。鶴見氏を招聘した理由は、全国で相撲に関するリサーチを行い、相撲聞（相撲文化がつくりあげてきた歴史的文脈）によって、新しい芸術文化創造活動を行っているからである。

プロジェクトの一つ目の目的は、地域の眠っている文化資源を掘り起こすことにある。今では誰も見向きもしない土俵に焦点を当てて、その周辺地域の市民を巻き込みながら音楽創作ワークショップを行う。この活動を行うことで土俵の再活用を図る。二つ目の目的は、アーティストと周辺の住民を巻き込むことで、下町周辺の住民の出会いを創出し、新しいコミュニティを形成すること。アーティストと住民の出会いにより、地

域に対しての愛着を再び生み出す。

プロジェクトの実施により、下町地域において、かつて相撲が盛んであり今も人気があること、また、地域住民の思い出に相撲にまつわる物語があり、引き付ける魅力となることを再発見できた。

使われていない土俵の文化資源化を図り、曙公園相撲場を20数年ぶりに活用した行事を開催できたことで、今後も地域行事や相撲関連行事等で活用できることを地域住民が確認した。相撲文化をめぐり、元相撲取りや相撲甚句協会、地域の相撲好きの住民が参加してくれたことで、新しいコミュニティが地域の中で形成された。

- 9月29日(土) 儀式作りワークショップ（集会所とてよる）
- 9月30日(日) JACSHA 土俵開き in あけぼの公園（曙公園相撲場）